

# 俳句

## 1年目 ステップ8



おんせい  
音声はこちら

あき ふか 秋深き となり なに 隣は何を ひと する人ぞ



まつ お ば しょう  
松尾芭蕉

いし ぼとけ 石仏 だれ も 誰が持たせし くさ はな 草の花



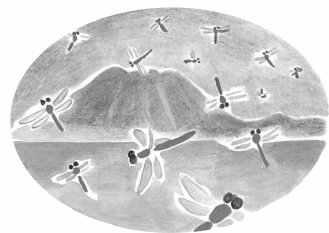
こ ば や し い つ き  
小林一茶

もの 物いえば くちびる さむ 唇寒し あき かぜ 秋の風



まつ お ば しょう  
松尾芭蕉

あか 赤とんぼ つく ば 筑波に雲も くも なかりけり



まさ お か し き  
正岡子規



おんせい  
音声はこちら

# 慣用句

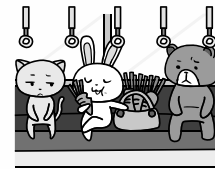
## 1年目 ステップ8

だ  
あごを出す  
ひどく<sup>つか</sup>疲れ<sup>ようす</sup>きった様子。



め あま  
目に余る

あまりにも<sup>ど</sup>度が<sup>す</sup>過ぎていてそのまま<sup>み のが</sup>見逃すわけにはいかない。



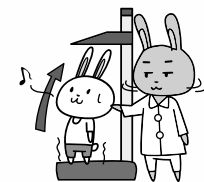
て あし で  
手も足も出ない

<sup>こま</sup>困り<sup>は</sup>果てて<sup>ほどこ</sup>施すべき<sup>しゅ だん</sup>手段や<sup>ほう ほう</sup>方法が<sup>み</sup>見つからない様子。



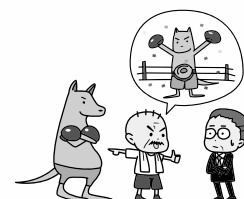
ちや  
お茶をにごす

その<sup>ば</sup>場をなんとか<sup>き</sup>切り<sup>ぬ</sup>抜けようといいかげんにしてごまかす。



たい こ ばん お  
太鼓判を押す

<sup>ぜったい</sup>絶対に<sup>ま ちが</sup>間違いないと<sup>ほしょう</sup>保証すること。





## 《他動詞と自動詞》

動詞を二つに分ける 他動詞 自動詞

他動詞は 目的語が必要です

見分け方は

○○（なにに）を があれば 他動詞

なければ それは自動詞

妹を起こす は 他動詞

妹が起きる は 自動詞

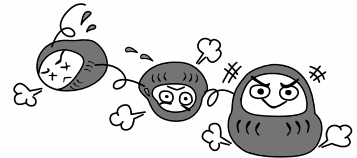
た どう し 他 動 詞		じ どう し 自 動 詞	
お 起こす	いもうと お 妹を起こす	お 起きる	いもうと お 妹が起きる
お 折 る	えだ お 枝を折る	お 折れる	えだ お 枝が折れる
あける	ドアをあける	あ く	ドアがあく
...など		...など	



おんせい  
音声はこちら

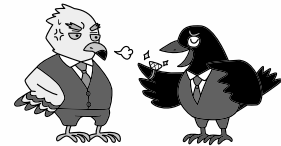
ななころ や お  
七転び八起き

失敗や成功は繰り返されるものだから、失敗に屈せず努力せよということ。



くち わざわ  
口は禍いのもと

うっかり言ったことから失敗を招くこともあるので言葉は慎めという戒め。



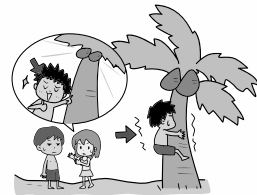
いし うえ さん ねん  
石の上にも三年

つらくても頑張って続けていれば必ず成功するということ。



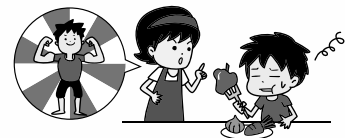
い やす おこな かた  
言うは易く行うは難し

口で言うだけなら誰にでもできるが、実行するのは難しいものだということ。



りょうやく くち にが  
良薬は口に苦し

自分のためになる忠告は聞きづらいということのたとえ。



ぶた しん じゅ  
豚に真珠

どんなに高価なものでもその価値を知らなければ役に立たないことのたとえ。



# 百人一首

## 1年目 ステップ8



おんせい  
音声はこちら

立<sup>た</sup>ち別<sup>わか</sup>れ  
いなばの山<sup>やま</sup>の  
まつとしの  
聞<sup>き</sup>かば峰<sup>みね</sup>に  
生<sup>お</sup>ふる  
今<sup>いま</sup>歸<sup>かえ</sup>り来<sup>こ</sup>む

(中<sup>ちゅう</sup>納<sup>な</sup>言<sup>ごん</sup>行<sup>ゆき</sup>平<sup>ひら</sup>)

君<sup>きみ</sup>がた<sup>め</sup>  
春<sup>はる</sup>の野<sup>の</sup>に出<sup>い</sup>でて  
わが衣<sup>ころも</sup>手に  
雪<sup>ゆき</sup>は若<sup>わか</sup>菜<sup>な</sup>摘<sup>つ</sup>む  
降りつ  
つ

(光<sup>こう</sup>孝<sup>こう</sup>天<sup>てん</sup>皇<sup>のう</sup>)

